

慶應義塾大学試験問題用紙 (日吉)

| | | | | | | | | |
|----------------------|--------|------|----|---|---|------|-----|---|
| 平成14年 7月9日(金) / 時限施行 | | 学部 | 学科 | 年 | 組 | 試験時間 | 50分 | 分 |
| 担当者名 | 樋口 美雄 | 学籍番号 | | | | 採点欄 | | |
| 科目名 | 理論経済学I | 氏名 | | | | | | |

解答は全て解答用紙の指定された箇所に記入すること

I. 以下の質問に答えなさい。

- (1) 『労働力調査』において、完全失業者とはどのような条件を満たす人か。その条件を三つ書きなさい。
仕事がなく、仕事を探していた者、仕事があっても就けず居る者。
- (2) 完全失業率の分子は完全失業者数であるが、分母は何か。
労働力人口
- (3) フィリップス曲線とは横軸に何をとり、縦軸に何をとった曲線か。また両者の間にはどのような関係が発生していると想定されるか。
横軸：完全失業率、縦軸：賃金上昇率
失業者の増加、物価の高騰
- (4) スタグフレーションとは、どのようなことが発生している状態か。
失業者の増加、物価の高騰
- (5) スタグフレーションを解消するために、古典派、ケインズ派は、それぞれどのような施策を上張したか。要約して述べなさい。
古典：価格調整、マネーリズムにより市場競争に任せる。
ケインズ：政府支出の拡大による有効需要の拡大、IS曲線を右へシフトする。

II. IS 曲線、LM 曲線について、以下の質問に答えなさい。

- (1) 国内総支出は $Y = C + I + G + (Ex - Im)$ という式で示されるが、それぞれの記号は何を意味するか。『国民経済計算』で使われる用語で答えなさい。
- (2) $C = a + b(Y - T)$ 、 $I = d + e \cdot i$ とする。T、i はそれぞれ何を示すか。
T: 税金、i: 実質金利
- (3) 係数 a、b、e はどのような符号の値をとるか。
 $a > 0, b > 0, e < 0$
- (4) IS 曲線を示す式を導きなさい。
- (5) マネー・サプライを増やすための施策として、どのような方法が考えられるか。四つ挙げなさい。
公定歩合引き下げ、法定準備率引き下げ、買いオペ、再割引率引き下げ
- (6) 実質貨幣需要量を $L = g + hY + k(i + \pi)$ とする。係数 h、k はどのような符号の値をとるか。ただし π は期待インフレ率を示す。
 $h > 0, k < 0$
- (7) 貨幣供給量を M、物価水準を P とし、LM 曲線を示す式を導きなさい。
- (8) 潜在 GDP (YD) とは何か。その国に存在する全の生産設備、労働力を使用して生産できる供給能力
- (9) IS 曲線と LM 曲線の交点における国内総生産を Y^* とする。YD > Y^* としたとき、両者の差をなんと呼ぶか。
デフレギャップ
- (10) 両者の差を埋めるには、どのような政策が考えられるか。三つの政策を挙げ、それぞれについて説明しなさい。
① 財政支出の拡大により IS 曲線を右へシフト、② 日銀が名目貨幣供給量を拡大せしめることにより LM 曲線を右へシフト、③ 物価の下落により LM 曲線を右へシフト
- (11) 「流動性のわな」が発生しているという状態は、IS 曲線、あるいは LM 曲線がどのようになっていることを示すか。二つの状態を図 1、図 2 に示しなさい。
- (12) 「流動性のわな」が発生しているときの、財政政策、金融政策の有効性について、説明しなさい。
- (13) 固定相場制のもとにおける財政政策、金融政策の有効性について、図 3 に適当な線を記入し、説明しなさい。
- (14) 変動相場制のもとにおける財政政策、金融政策の有効性について、図 4 に適当な線を記入し、説明しなさい。

$$(4) i = \frac{a + (1-b)T + d + (G-T) + (Ex-Im)}{e} - \frac{(1-b)}{e} Y$$

$$(7) i = \frac{M/P - g + hY}{k} - \pi$$

